

広報ほんべつ

本別

いいひと いいまち いきいきほんべつ

HONBETSU

2015

July
No.1041

7月

表紙 5,174人の町民が参加し、
3年連続金メダルを獲得し
たチャレンジデー2015



本別空襲の日

決して忘れてはならない7月15日

本別空襲の日

決して忘れてはならない7月15日

平和への誓い 新たに

第二次世界大戦終戦間際の1945(昭和20)年7月15日、本別町は米軍による空襲を受け、三日三晩燃え続けた町は焦土と化し、40人が死亡、279戸が全焼。被災者総数は1915人で、その被害は北海道で5番目、十勝で最大といわれています。しかし、深い悲しみから立ち上がった町の人々は復興に全力を注ぎ、本別町の発展を支えました。それから70年が経過し、空襲を受けた私たち本別町民は、この悲惨な戦争を繰り返さないよう後世に伝えていかなければなりません。本別空襲のあった7月15日には、空襲で犠牲になられた人や幾多の戦役で戦死された人のご冥福をお祈りし、二度と悲惨な戦争を起こさないことを誓うため「本別町戦没者・戦災死没者追悼式」が行われています。そして7月15日を中心に語り継ぐための事業が開かれます。



空襲を受け3分の2が焼失した本別市街

今、問い直す「平和」の意味 未来につなぐ「平和」の絆 特別展「7月15日本別空襲を伝える～昭和史から見る戦後70年～」

終戦から70年にあたる今年、わが町の最大の悲劇「本別空襲」を、昭和史最大の戦争被害となった「広島・長崎の原爆」とともにふり振り返り、平和の大切さを後世に伝え残すための資料館特別展「7月15日本別空襲を伝える～昭和史から見る戦後70年～」と関連事業「戦後70年平和のつどい」を開催します。どうぞ来場ください。

期 間 7月10日(金)～8月16日(日) ※各月曜日は休館

開館時間 火～金曜日 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
土・日曜日 午前9時～午後3時(入館は午後2時30分まで)

と ころ 歴史民俗資料館

入 館 料 一般 100円(150円)、小中高生・65歳以上の人・障がいのある人 50円(100円) ※()は町外の人

問い合わせ 歴史民俗資料館 ☎22-2141(内線410)または
図書館 ☎22-5112



★「戦後70年平和のつどい」を7月15日、午後6時30分から中央公民館で開催します。講師の神田甲陽氏を迎え、原爆の事実と平和とは何かを迫りたっぷりに語りますので、ぜひご来場ください。
※詳しくは、7月1日号くらしの情報紙かけはしをご覧ください

本別町戦没者・戦災死没者追悼式



昨年の追悼式

と き **7月15日(水) 午前10時**

と ころ **ふれあい交流館(向陽町)**

今年も「本別町戦没者・戦災死没者追悼式」が執り行われます。本別町では、日清・日露・第二次世界大戦の戦役で299人が戦死され、本別空襲において40人の尊い命が奪われています。追悼式は午前10時に始まり、黙とう、追悼のことば、献花など犠牲者のご冥福をお祈りし、平和への誓いを新たにしています。町民の皆さんの参加をお願いするとともに、黙とうを呼び掛けるサイレンが午前10時05分ころに吹鳴されますので、一緒に黙とういただきますようお願いいたします。

黙とうをお願いします

国民年金 コトナリ

「年金情報流出」
を口実にした
詐欺にご注意を!

その159

日本年金機構において、同機構職員のパソコンへ外部から不正アクセスを行い、年金加入者などの個人情報が入部に流出したことが5月28日に確認されました。

この事件を利用し、日本年金機構をかたって口座番号を聞き出そうとしたり、「流出した個人情報削除する」などと持ちかけ、金品などをだまし取るような詐欺が現れています。

情報が流出した人については、基礎年金番号の変更などを行い、皆さんの年金を守るための対処を現在行っています。

★日本年金機構が、この事件に関して次のような事柄について行うことは一切ありませんので、不審な連絡にご注意してください。

- ・年金加入者へ電話やメールで連絡することは一切ありません
- ※情報の流出が確認された人への新しい基礎年金番号の通知は、郵送でお知らせします
- ・お金やキャッシュカードを要求することは一切ありません
- ・年金加入者へ銀行などのATMの操作をお願いすることは一切ありません
- ・年金加入者の個人情報(家族構成など)を確認することは一切ありません

ご自宅や職場などに日本年金機構を名乗る不審な電話がかかってきたら、迷わず専用電話窓口または住民課戸籍年金担当へご相談ください。

日本年金機構専用電話窓口

☎0120-818211

※受付時間 午前8時30分～午後9時
通話料はかかりません



詳しくは
住民課戸籍年金担当へ

☎22-8128

勇足大運動会 ~保育所・小学校・中学校~ 5/30

スローガン 勇足小学校「目指せゴール!! 赤白本気を出して全力で立ち向かおう!」
 勇足中学校「二十人二十色 ~それぞれのカラーで」



ヨサコイソーラン

中学校応援合戦

幼児も力走

ゆうゆうパックお届けで~す!

小学校応援合戦

息を合せて10人11脚

PTAと中学年によるフォークダンス

ぼんば DE 3人4脚

父兄も力走

勝利を目指して



幼児も頑張った大玉ころがし

よさこい・2015

力の限り

ゆるキャラとPTAも頑張りました

どっちが勝つか全校リレー

G I 人間ばん馬

「力を合わせ、真の勝利をつかみとれ!」
スローガン
仙美里保育所
仙美里小学校大運動会
 6/14

本別中学校体育祭 5/30

スローガン ^{ひやくせつ ふ とう}「百折不撓 ~You're not alone~」



勝利の雄たけび

先生も応援に力が入ります

渾身の力で

笑いを誘った部活対抗リレー

呼吸を合わせて

今年初の組団応援合戦

地域あげての運動会・体育祭が、5月下旬から6月上旬にかけて町内の小中学校で開催されました。この日のために一生懸命練習を重ねてきた子供たちは、運動会のスローガンの下、個人や団体種目に真剣に取り組み、勝利を目指し健闘。各学校のグラウンドには、応援に訪れた家族や祖父母、子供たちの声援が響き渡り、地域の一大イベントを盛り上げました。
 各学校では、地域の人が参加する競技も用意するなど趣向を凝らした競技が展開され、グラウンドに集まった全ての人が楽しい1日を過ごしました。

運動会 体育祭 2015



力が入った応援合戦

いくつ入るかな?

4年生伝統の本別競輪

最後に残って1対1の決戦

決まった!!

「スローガン」
 「キズナ」全力で最高の運動会」
本別中央小学校運動会
 6/6



人口減少に歯止めを！ 活力ある社会を維持するために

国立社会保障人口問題研究所（社人研）の『日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）』で本町の人口は約4700人になると推計されています。現在、全国の自治体において、「まち・ひと・しごと創生」が取り組まれています。

本町の地方創生の取り組みも、人口減少に歯止めをかけ、それぞれの地域で住みよい環境を確保し、将来にわたって活力ある社会を維持していくため、町民の皆さんと共に、目指すべき将来の方向を見据え将来展望をもって進めていかなければなりません。本号では、本別町の人口動向等について、ご紹介します。

本別町の人口の推移

表1

1965年～1975年の10年間で大きく減少（2885人）していますが、昭和35

（1960）年以降、本町の工業地帯や都市への若い労働力の流出が要因と考えられ、また、この頃から離農も目立ちはじめ、次第に広がって

る農業と他産業との所得格差が、経営基盤の弱い農家の転職へつながったと考えられます。1985年～1995年で2198人が減少していますが、若者の町外転出、出生率の低下、高齢化の進展と離農、官公庁・企業の統廃合などが重なり大きな減少となったと考えられます。2015年以降の社人研の推計によると、今後も人口は減少を続け、平成52（2040）年には、約4700人（現在から約38%減少）になるものと推計されています。生産年齢人口は、団塊の世代が15歳以上に突入する1955年から1965年にかけて増加していますが、1970年以降は、減少に転じ、現在まで続いています。年少人口は、転出や出生率の低下などにより、1955年以降減少が続き、1995年には老年人口を下回りました。一方、老年人口は、生産年齢人口が順次老年期に入り、平均寿命が延びたことから一貫して増加を続け、2020年からは減少になると推計されています。

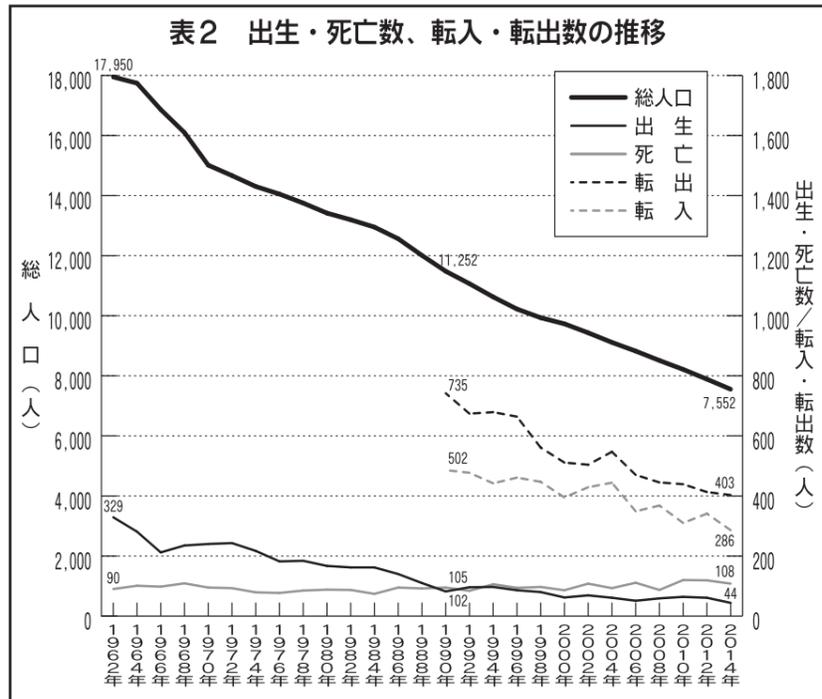


表2

自然増減（出生数－死亡数）については、出生率の低下・母親世代人口の減少の影響で一貫して出生数が減り続けています。1990年ごろまでは、平均寿命の延びを背景に死亡数がそれほど増えず「自然増」でありましたが、1993年以降は死亡数が出生数を上回る「自然減」の時代に入っています。社会増減（転入数－転出数）については、転入・転出ともに年による増減はあるものの、一貫して転出超過（社会減）が続いています。

※住民基本台帳より

3割引で販売！（ふるさと特産品販売事業）

「お中元ギフトセットセレクション」販売のお知らせ

国の地域住民生活緊急支援交付金を活用した「ふるさと特産品販売事業（町が指定する町内の名物商品を3割引で販売）」を行います。販売期間や商品詳細は7月上旬の新聞折り込みチラシをご覧ください。

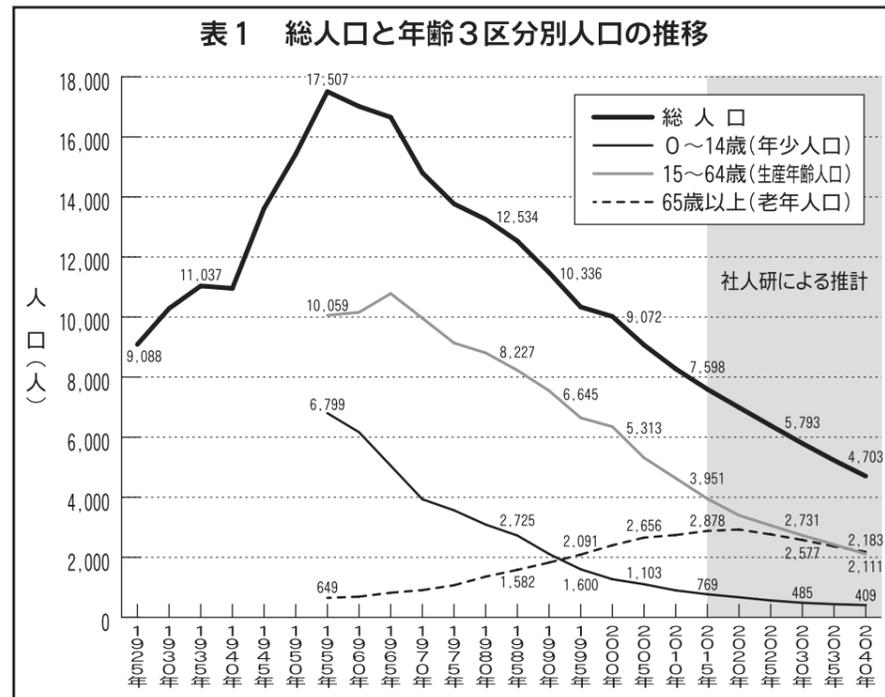
▶申し込みおよび問い合わせ 本別町観光物産センター ☎ 22-3306



地方創生アンケートのご協力ありがとうございました

6月に町民1000人を対象に行いました「地方創生に関する町民アンケート調査」では、回答にご協力いただき誠にありがとうございました。アンケート結果については、集計後、町広報等を通じてお知らせいたします。

問い合わせ 企画振興課 企画・生涯学習担当 ☎ 22-8121



※1925～2010年までは国勢調査による

第13回 ほんべつ元気学宿



町内の3小学校から参加した316年生17人は、北海道教育大学釧路校や北翔大学の学生7人とボランティアクラブかめや地域のボランティアなどのサポートを受けながら、毎日、昼間は学校へ通い、下校後に買い物から食事づくり、身支度から洗濯など悪銭苦闘しながらも、仲間と協力し積極的に取り組んだほか、17日には、毎年恒例の流しそうめんや学生によるレクリエーションなども行われるなど、共同生活を楽しみました。

参加した子供たちは、普段は親などが当たり前のようにやってくれる恵まれた環境で育っていることに感謝しながら、充実した6日間を過ごしました。

**親に感謝しながら
充実した6日間**

親元を離れ、生活体験をしながら通学する第13回ほんべつ元気学宿（実行委員会主催 山下健司実行委員長）が6月14日から19日の6日間、中央公民館を主会場に行われました。



大学生企画のレクリエーション

皆で作って楽しく食事



楽しみにしていた毎年恒例“流しうどん”

住民総参加型スポーツイベント

チャレンジデー2015



ゲートボール大会

ファイナルイベント「豪華景品！ディスコン大会」

向陽町ふれあいサロン

ふまねっと・ガンパルーン体験会

共栄自治会ラジオ体操

健闘をたたえ両町の町旗を掲揚

自然散策しながら五剣山登山

人口規模がほぼ同じ自治体同士が運動やスポーツをした住民参加率を競う、住民総参加型スポーツイベント「チャレンジデー2015」（実行委員会主催＝大西光夫実行委員長）が5月27日、町内全域で行われました。

5,174人の町民が参加し、 3年連続金メダル獲得

当日は、実行委員会や自治会が主催するラジオ体操やウォーキング、各種大会などが実施され、オープニングイベント「おはようラジオ体操」には、出勤前のサラリーマンなど約130人が参加したほか、今年初開催のファイナルイベント「豪華景品！ディスコン大会」には18チーム約70人が参加するなど、一日を通して多くの人が運動やスポーツに親しみました。

この結果、今回のチャレンジデーでは、人口7,706人（2月1日現在）に対し参加者5,174人と、昨年を2.8ポイント上回る67.1%の住民参加率を記録し、自治体の健闘をたたえる住民参加率に応じたメダル認定で、3年連続金メダルを獲得しました。

住民参加率を競った対戦相手の秋田県小坂町の結果は62.0%と本町が勝利。お互いの健闘を称え、1週間両町の町旗を町体育館に掲揚しました。

皆さんも、このイベントをきっかけに、日常生活に運動やスポーツを定期的に取り入れ、健康な心と体を養いましょう。

HELLO 農業大学校

北海道立 農業大学校を紹介!

北海道立農業大学校入校式

4月7日(火)、北海道立農業大学校の入校式を行いました。今年度は道内外から63人が入校し、荒川裕生北海道副知事をはじめ、多くの来賓や父兄の皆様にご祝福され、緊張した面持ちで農大生の一歩を踏み出しました。

この様子は、当日のNHK「ほっとニュース北海道」でも放送されました。



畜産経営学科



畑作園芸経営学科



農業経営研究科

農大エピソード

入校式 4月7日



入校生代表宣誓

クリーン運動 4月20日



農大周辺のゴミ拾い

ほ場準備 4月21日



タンカルを丁寧に投入

ばれいしょ植え付け 5月7日



天候に恵まれ笑顔の学生

つつじ祭り 5月10日



地域の方々にも大好評

強歩大会 5月22日



全員完走

町国保病院内科医長に 朝井基裕もとひろ医師が着任しました

6月1日、町国保病院内科医長に朝井基裕医師(62歳)が着任しました。

患者さんの

考え方に沿った

診療を心掛けた

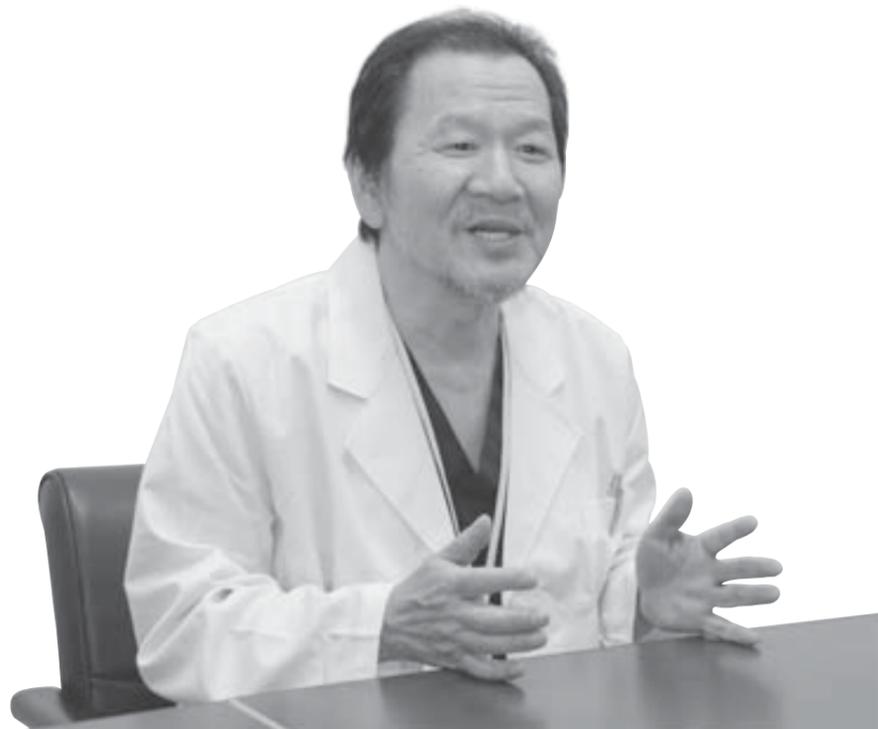
朝井医師は、大阪府守口市出身で、帝京大学医学部を卒業後、大阪府内の厚生年金病院に勤務し、平成元年からは大阪府の天満橋で朝井内科クリニックを10年間開業。その後は、大阪や神戸で勤務医や企業の産業医として勤められ、平成25年9月から平成26年12月まで斜里国民健康保険病院などで勤務されてい

ました。専門は内科、呼吸器科。

朝井医師は、本別町に決めた理由については、斜里の病院に勤務していた時に北海道が気に入って、退職後、大阪に戻り勤務したが、北海道に戻りたく見学に来町を訪れ「自然の雄大さからつとめた気候に好感を持ち、すぐに決めました」と本別町の印象について話されました。

今後は、皆さんの性格は百人百様で、「患者さんの考え方に沿った診療を心掛けた」と強調し、専門の呼吸器科はもとより内視鏡や小外科手術など医師として35年間のキャリアを生かし、積極的に治療にあたりたいと話され、本病院は初期救急を担う病院で「他の病院に搬送するかどうかの見極めを瞬時に的確に行い、町民の安心安全を守るよう務めたい」と力強く抱負を語られました。

趣味は、ギターでの弾き語りや食べ歩きで、町内の主要な飲食店は既に制覇したとのこと。関西出身者らしく「1・2週間に1回はたこ焼きを食べないと気がすまない」と笑顔で話してくれました。



学校周辺をきれいに **6 8**

鹿島組（鹿島豊隆社長）が6月8日、本別中央小学校の敷地内で支障木伐採と同校周辺通路の草刈り作業を実施しました。これは、地域貢献活動の一環として行われたもので、作業にあたった職員6人はチェーンソーや刈払機などを使用しながら枝や雑草などを取り払い、学校周辺がとてもきれいになりました。



親子で楽しみながら運動 **6 5**

勇足保育所の親子遠足に合わせ、幼児の運動能力向上事業が6月5日、本別公園で行われました。参加した幼児や母親ら約40人は、町スポーツ推進委員2人の指導のもと、運動神経を鍛える「コーディネーション運動」に挑戦。母親の背中に乗ってバランスを取ったり、背中の上を跳び越えたりするなど、親子で楽しみながら運動しました。



ひまわり迷路開催に **5 28** 向け、種まき

8月9日（日）から8月16日（日）に開催される第10回ひまわり三千坪迷路（ひまわり愛好会主催＝背戸田利光代表）に向け5月28日、美里別東中のひまわり牧場で種まきおよび会場準備が行われました。今年の同迷路は約1.4haの畑に作られ、まかれた種は緑肥用のひまわり「春りん蔵」10kg。作業には同愛好会の会員20人が参加し、トラクターを使った種まき作業と会場設営などに汗を流しました。背戸田代表は、「今年は10回目の記念の年。熱気球など新しい催しも増えているので、期間中何度でも遊びに来てください」と語りました。



ゲーム楽しみ **5 22** 介護予防

成人を対象とした義経教室が5月22日、本別教室を皮切りに今年度の日程をスタートしました。この教室は「つどい・ふれあい・心豊かに学ぶ」をテーマに年間8回のプログラムを通して健康に関する講座や軽スポーツを楽しむもので、勇足・仙美里地区でも同様に実施されます。今年度の3地区合計の受講者は106人で、6月1日の勇足教室には14人が参加。町健康管理センター保健師を講師に介護予防の講話や簡単なストレッチのほか、認知症予防のためのゲームなどを楽しみました。



交通安全を呼び掛け **6 11**

本別町商工会青年部（砂原剛部長）による交通安全街頭啓発が6月11日、北3丁目国道242号線沿いで行われました。この取り組みは、地域貢献などを通じて、青年部と地域との絆について確認・感謝するとともに、今後もさらに強化することを目的に、全国各地の商工会青年部で一斉に行われたもの。同会員ら10人は、スピードダウンと書かれた黄色い旗を振りながら道行くドライバーへ交通安全を呼び掛けました。



日ごろの訓練の **6 7** 成果を披露

2年に1回の本別消防団（遠藤利之団長）第1・2・3分団合同による本別消防団消防連合演習が6月7日、利別川河川運動公園で行われました。演習には、消防団員78人と消防車両7台が出動。団員らは、力強い号令を掛けながら、機械器具の点検や小隊訓練、一斉放水などきびきびした動きで日ごろの訓練の成果を披露しました。



事故に遭わないための **6 4** 注意点を学ぶ

町内の高齢者を対象とした、交通安全母の会（田西喜代会長）主催による高齢者の交通安全勉強会が6月4日、町体育館で開催されました。勉強会では、本別警察署久米井強地域交通課長による事故防止についての講話や、同署員から自転車の安全な乗り方や注意点などの説明を受けました。この他、交通安全クイズ大会なども行われ、参加した町内の高齢者88人は、日ごろから事故に遭わないための心掛けや注意点など、楽しみながら学びました。



新緑に囲まれ、 **5 28** バーベキュー

銀河サロン（運営委員会主催＝三井誠子委員長）花見交流会が5月28日、義経の里本別公園ステージ前で行われました。初めに、三井委員長が「大いに食べておしゃべりして楽しんでください」とあいさつした後、参加者約60人はさっそくバーベキューを開始。青空の下、参加者らは公園の新緑に囲まれながら焼き肉や焼き魚、うどんなどを堪能し、カラオケで自慢の歌声を披露するなど、楽しいひとときを過ごしました。





町中がたくさんの花でいっぱい

町内の自治会や各種団体などが町中をキレイな花で飾り、道行くドライバーや来町者、町民の皆さんの目を楽しませています。



5/22

商工会女性部（新津直子部長）の会員6人が、本別公園内にエゾムラサキツツジ40株を植えました。



向陽町自治会



共栄自治会



仙美里元町自治会

町自治会連合会（三枝金作会長）主催の花いっぱい運動において、国道24号線沿いや公共施設周辺などの花壇にサルビアなど6320株の花が植えられました。また、南4丁目自治会（吉田武久会長）、共栄自治会（島田敏会長）、仙美里元町自治会（佐藤秋雄会長）の会員が、帯広開発建設部の補助を得て国道24号線沿いの花壇でベゴニアなど4959株の花を植えました。

5/29



6/2

市街地婦人会（田原美枝会長）の会員23人が、十勝東北部銀河の里づくり協議会などの補助を受け、道の駅「ステラ★ほんべつ」西側花壇の整備を行い、ベゴニアなど950株を植えました。



6/19

鎌田建設工業（鎌田健治社長）の職員10人が、地域貢献活動の一環として、町道共栄緑町通りの花壇にマリゴールドなど800株の花を植えました。



6/4

J A本別町女性部（井出克子部長）の部員22人が、本別大橋から本別高校までの通学路に石竹やサルビアなど1000株の花を植えました。



6/19

野田組（野田仁社長）の社員15人が地域貢献活動の一環として、町体育館から歴史民俗資料館前の花壇にベゴニアやマリゴールドなど約700株の花を植えました。

障がい者週間記念事業、ほんべつ学びの日フェスティバル共同開催へ

6/17

チャレンジド・ネットワークほんべつ（新津和也会長）加盟団体代表者会議が6月16日、ふれあい交流館で開かれました。会議には、同ネットワーク加盟の11団体26人が出席。新津会長のあいさつに引き続き事務局から、例年開催時期の近い「障がい者週間記念事業（同ネットワークほんべつ主催）」と、「ほんべつ学びの日フェスティバル（教育委員会主催）」の共同開催に向けた検討経過が報告され、多くの人に障がい者支援や学びの取り組みを共に理解してもらう場になるよう今年度は実行委員会を組織し、12月上旬に共同で開催することが決定しました。この他会議では、各団体から平成26年度の活動状況などが報告され、今後も連携を密にし、情報共有を図っていくことを確認しました。



黒皮いんげん豆のようかんPR

6/17

「黒皮いんげん豆」を使ったようかんのPRのため6月17日、製造した共栄の土蔵とみ子さん、大越桂子さんが役場を訪れ高橋正夫町長に商品を紹介しました。黒皮いんげん豆は、まぼろしの豆と言われる希少な品種で、土蔵さんは「豆の栽培からようかんの製作まで5年間試行錯誤を繰り返し、ようやく完成した。農業をできる限り使わないことや手作りにこだわり、安全安心の1品ができました」と語り



ました。黒皮いんげん豆ようかんは、1個120円で、予約制のみの販売。詳細は土蔵農場（☎22-5365）へ。

45ℓいっぱいにごみ拾い

6/13

勇足元町地区の子ども会（久木田夏那会長）によるごみ拾いボランティアが6月13日、同地区で行われました。参加した同会会員の小学生14人と保護者らは、4つのグループに分かれ、空き地や歩道沿いなどに落ちていたペットボトルやたばこの吸い殻などを一つひとつ丁寧に拾い、集まったごみは45ℓのビニール袋いっぱいになりました。



迫力あるサウンドで観客を魅了

6/13

第32回吹奏楽合同演奏会（町文化協会主催）が6月13日、中央公民館で開催されました。演奏には本別ジュニアブラスアンサンブル、本別中学校吹奏楽部、本別高等学校吹奏楽部、本別ブラスアンサンブルの4団体69人が出演し、クラシックや歌謡曲など15曲を披露。最後に4団体合同による演奏が行われ、迫力あるサウンドでアンコールを含め4曲を演奏し、会場を訪れた家族や友人たち約200人の観客を魅了しました。



みんなの健康

371

さまざまなものが電子化されるなかで、小さな冊子としての形態がほぼ固定してきたお薬手帳は、端末をスマートフォンとする電子化に移行するの难道か。

電子お薬手帳について

電子化のきっかけのひとつは、東日本大震災です。このとき、お薬手帳の有用性が再認識され、電子化にも注目が集まりました。そこで、電子化の利点・欠点・問題点をまとめてみました。



利点

- ・スマートフォンは災害時や避難時に、持ち出す可能性
- ・書面以外の媒体でもよい、という薬事法の改正が必要。
- ・電子お薬手帳の利便性向上に向け標準仕様（互換性）を検討する必要がある。
- ・最後に今後の展望ですが、個人情報の考えとしては、確実に普及していくと思います。理由としては、「常に自分の薬に関する情報を携帯できる可能性が高い」という事でしょうか。

本別町国民健康保険病院
薬局長 三ツ石雅人

欠点

- ・高齢者のスマートフォンの普及率。医療機関ごとに複数の薬局を利用する場合、他の薬局でもらった薬データは手入力しなければならぬ場合がある。
- ・現状では、紙のお薬手帳と電子お薬手帳の両方が必要。

問題点

工夫凝らしたゲームコーナーを披露

6 18



勇足小学校（吉藤清孝校長、48人）「エトセトラマーケット」が6月18日、同校で開かれました。これは、生活科および総合的な学習の時間を使って行われたもので、全校児童が縦割りで4班に分かれ、手作りのゲームコーナーを披露したり楽しむもの。魚つりやおぼけやしきなど、各班工夫を凝らした催しがオープンすると、児童の保護者や学校から招待された勇足保育所年長児の親子などが日ごろの学習成果に理解を深めるとともに、笑顔のひとつときを過ごしました。

100歳おめでとうございます 町敬老祝い金の贈呈

6 18

福田サツキさん（西仙美里）が6月18日に100歳を迎えられ、高橋正夫町長から敬老祝い金と商品券が贈呈されました。

サツキさんは、大正4年6月18日に釧路市で生まれ、夫の故文治さんが西仙美里の軍馬補充部に勤務となったことから本別町へ。終戦後は農業を営みながら、3男3女のお子さんを育て、孫12人、ひ孫16人に恵まれました。現在は足寄町内の介護療養型老人保健施設に入所しており、お祝いのこの日は次男の福田俊男さんから家族が駆け付け、花束やプレゼントが手渡されたほか、施設の入所者や職員などがパースデーソングを歌いサツキさんの100歳を祝福しました。サツキさんが100歳を迎えたことについて俊男さんは、「母は内臓が強く、働き者だったことが長生きの秘訣では。こんなに祝ってもらえると思わなかったので、母も喜んでいてと思いますし、心から感謝します」と涙ながらに喜びを語りました。



情報を広報電算担当へお寄せください ☎22-8121

銀河ホップランド

足寄町

足寄町観光体験ツアー

足寄町内にはあなたの知らない観光名所・秘境・宝物が数多くあります。この機会にご家族や職場の仲間と気軽にご参加ください。

□とき **7月8日(水)**

※午前7時50分までにあしよろ銀河ホール21北側駐車場集合

陸別町

第7回ふるさと銀河線りくべつ鉄道まつり

花火やお笑いステージショーなど多彩な催しで皆さんをお迎えします。ぜひお越しください。

□とき **7月18日(土)**

午後6時～午後9時

7月19日(日)
午前10時～午後3時

□目的地 茂足寄ー上鯉湾ー平和ほか

□内容 硫黄鉱山跡、ラフンブキ鑑賞ほ場、自衛隊足寄弾薬支処、足寄動物化石博物館

□参加費 1人1000円 (昼食代、体験料として)

□申込期限 7月3日(金) 午後5時まで

□申込先・詳細 あしよろ観光協会事務局 ☎251-6131

□ところ 18日 緑町サッカー場
19日 駅前多目的広場

□内容 18日 花火大会、花火列車運行
19日 お笑いステージショー(まぢやまぢや、ネジックス、Nifu)、歌謡ショー、銀河線縁日、子どもビンゴ大会、大抽選会

□詳細 陸別町観光協会事務局 (陸別町役場産業振興課内) ☎271-2141 内線135

ご寄付ありがとうございます

平成27年5月16日から6月15日

次の通りご寄付をいただきました。紙上をかりて厚くお礼申し上げます。(敬称略)

- ★本別町老人ホーム指定
タオル150本………共栄自治会婦人部一同
タオル50本………市街地婦人会 会長 田原美枝
タオル62本………本別町赤十字奉仕団 委員長 佐藤郁子
米10kg………本別陸上クラブ 会長 我妻勇次
- ★本別消防署指定
タオル60本………市街地婦人会 会長 田原美枝

- ★本別町中央公民館・体育館指定
タオル50本………市街地婦人会 会長 田原美枝
- ★仙美里保育所指定
牛乳贈答券10,000円………拓農酪農振興会 会長 戸来敏典

個性あるふるさとづくり寄付条例による寄付
金30,000円………札幌市 高橋禮子
金10,000円………東京都 藤田潔
計金90,000円………匿名9人

本のある暮らし 172

戦後70年・夏

戸籍のまど

おくやみ

5月後半から
6月前半の
届出分

- 大住幸雄さん88歳 5/19 新 町
- 稲守 亨さん80歳 5/23 南2丁目
- 伏見ミヤ子さん86歳 5/24 美里別東上
- 久世イソさん92歳 5/25 勇足東1
- 田中さち子さん77歳 5/25 北8丁目
- 前田豊晴さん82歳 5/27 朝日町
- 関本孝男さん69歳 5/29 北8丁目
- 山口金助さん94歳 5/29 南2丁目
- 渡部久子さん92歳 5/31 南2丁目
- 月井フミ子さん80歳 6/3 北3丁目

～本から考える「平和」～

毎年、図書館では資料館企画展「7月15日本別空襲を伝える」に合わせて、戦争と平和を考える本の紹介をしています。

今年は戦後70年。さまざまな関連本が出版されていますが、中でも多くの人に読まれているのがこの本です。

争いの中でいちばん傷つくのは子供たち。なのに、子どもさえも兵士となって人を傷つけ生きていく現実…著者の後藤健二さんは、ジャーナリストとして戦争や難民生活といった苦しみの中で暮らす子供たちにカメラを向け、各地を取材してきましたが、彼の名前が世界中に知れ渡ったのは、2015年1月31日のイスラム国（当時）による殺害と見られる事件でした。著者の強い意志を感じる遺言のような一冊です。

書名 ダイヤモンドより平和がほしい
～子ども兵士・ムリアの告白～

著者 後藤健二

出版社 汐文社



2006年第53回
産経児童出版文化賞
フジテレビ賞受賞
出版年 2005年7月
(2015年2月12刷)

わたしたちのまち

前月比
人口 **7,620人(-10)**
男 **3,749人(-5)**
女 **3,871人(-5)**
世帯数 **3,745戸(+2)**
〔5月末日住民基本台帳〕

お問い合わせ先
本別町図書館
(愛称:ぶつくるーぶ)
本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112